

第6章 高等学校教育

第1節 学校管理

1 生徒数と教職員数

(1) 県立高等学校の推移

年度 区分		14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
全 日 制	本 校	85	85	85	85	85	85	85	84	83	83
	分 校	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5
定 時 制	独 立	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5
	併 置	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2
	計	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	分 校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(注)募集基準として学校数を算定した(課程の変更、募集停止を実施した場合、2年以上の生徒が在籍しても学校数に含めない)。

(2) 中学校卒業者の進学状況

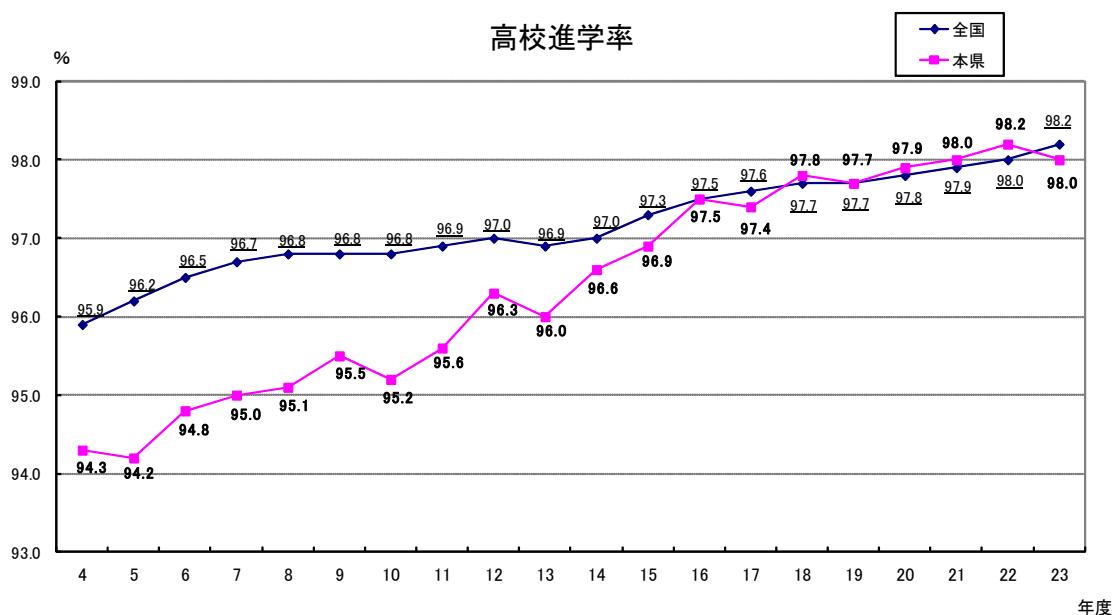
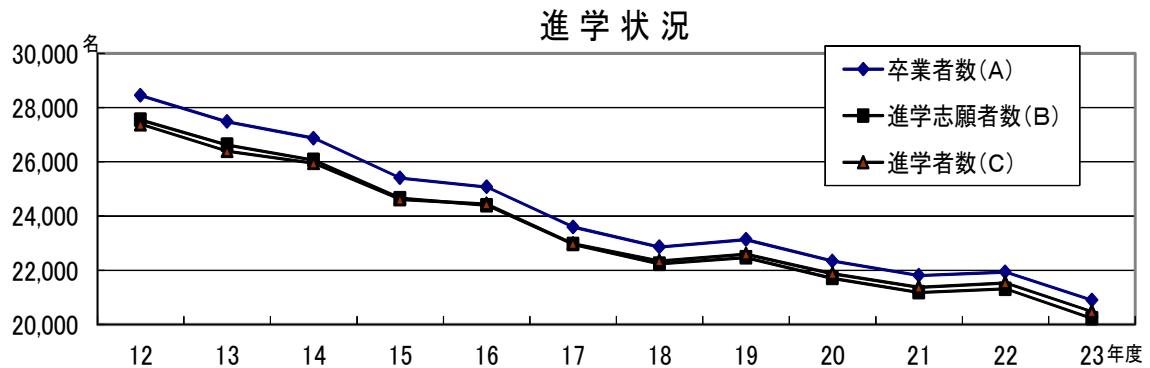
年度 区分		12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
卒業者数 (A)		28,448	27,482	26,868	25,404	25,067	23,593	22,851	23,127	22,333	21,807	21,930	20,887
進学志願者数 (B)		27,545	26,622	26,068	24,653	24,392	22,957	22,231	22,471	21,704	21,176	21,305	20,219
進学者数 (C)		27,382	26,395	25,947	24,617	24,441	22,981	22,337	22,593	21,873	21,371	21,529	20,467
進学志願率 (B/A)		96.8	96.9	97.0	97.0	97.3	97.3	97.3	97.2	97.2	97.1	97.2	96.8
進学率 (C/A)		96.3	96.0	96.6	96.9	97.5	97.4	97.8	97.7	97.9	98.0	98.2	98.0
入学率 (C/B)		99.4	99.1	99.5	99.9	100.2	100.0	100.5	100.5	100.8	100.9	101.1	101.2

(注)進学とは中学校卒業者のうち県内外を問わず、高校の全日制、定時制、通信制、別科、高専及び特別支援学校高等部へ進学したこと(就職者を含む)。進学志願者数には高校の通信制課程志願者は含まれない。

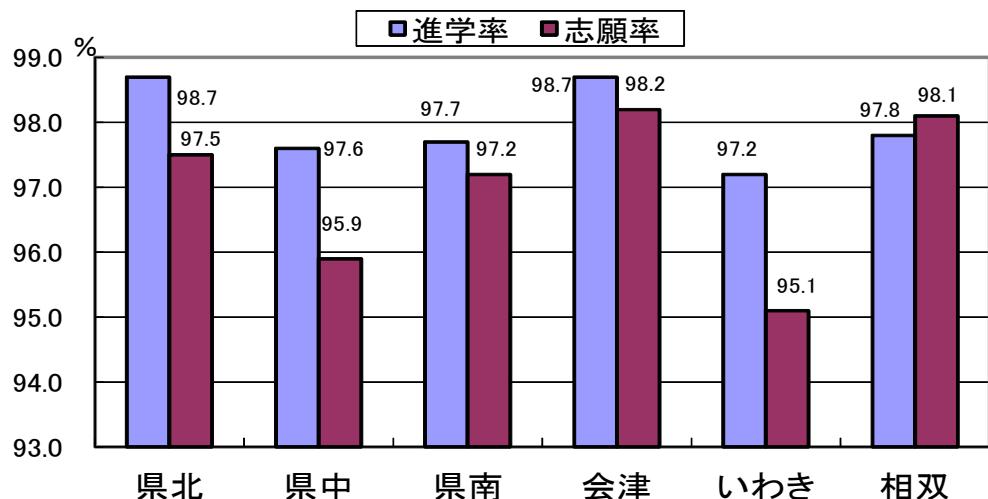
中学校卒業者数は前年度より1043名減少し、進学率は0.2ポイントダウンし、入学率は0.1ポイントアップした。

平成23年度の進学者の内訳については震災の影響により調査できなかった。

ア 中学校卒業者の進学状況の推移、進学率の推移

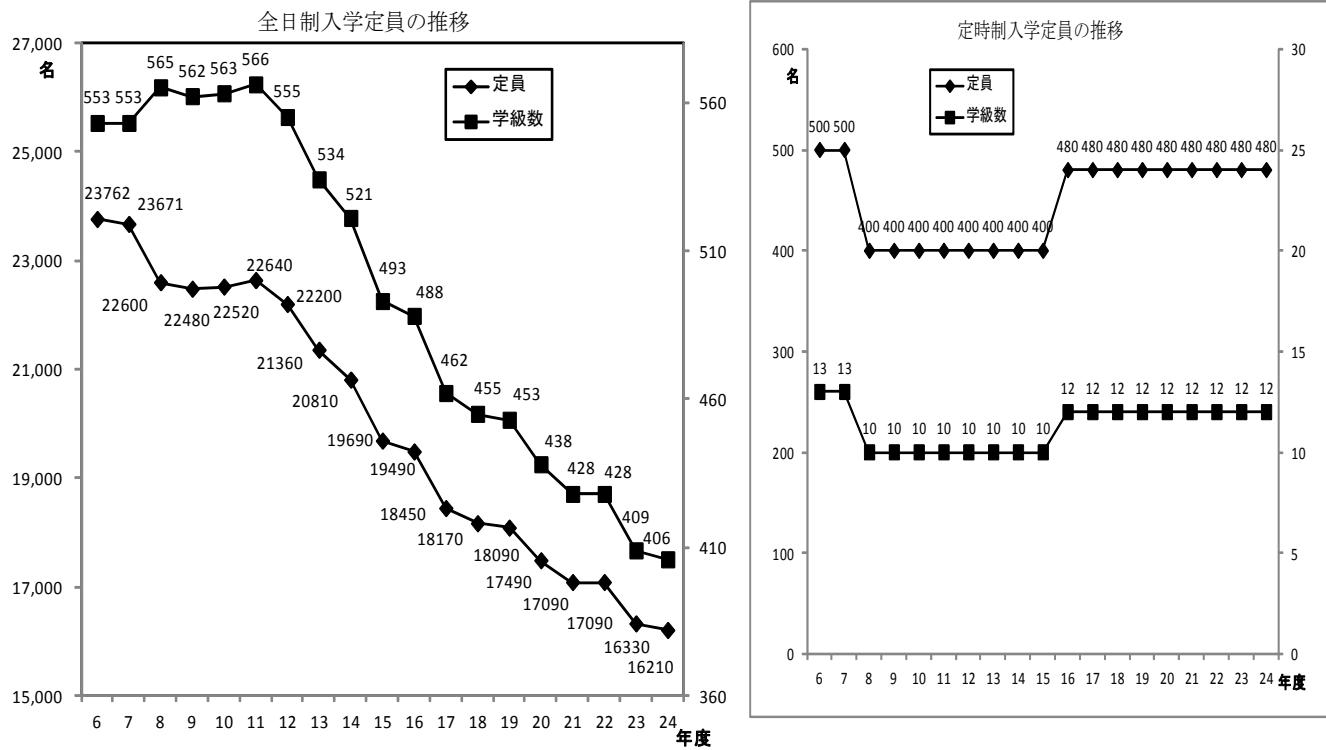


イ 地域別高校志願率・進学率



(3) 県立高等学校入学定員の推移

ア 全日制入学定員並びに定時制入学定員の推移



イ 学級編成基準

学科の区分	全 日 制	定 時 制	学科の区分	全 日 制	定 時 制
普通科	35, 40	40	国際文化に関する学科	40	-
農業に関する学科	40	-	英語に関する学科	40	-
工業に関する学科	40	40	体育に関する学科	40	-
商業に関する学科	40	-	美術に関する学科	40	-
家庭に関する学科	40	-	国際科学に関する学科	40	-
水産に関する学科	40	-	総合学科	40	-
理数に関する学科	40	-	国際・スポーツに関する学科	40	-
文理に関する学科	40	-			

(4) 県立高等学校全日制課程入学状況の推移

年度	中学校卒業者数	入 学 定 員		志 願 者 数		志 願 倍 率	入 学 者 数	
		A	B 定員	B/A (%)	C 志願者数	C/A (%)	D 入学者数	D/C (%)
14	26,868	20,810	77.5	23,458	87.3	113	20,246	86.3
15	25,404	19,690	77.5	23,303	91.7	118	19,268	82.7
16	25,067	19,490	77.8	20,659	90.4	116	18,988	83.8
17	23,593	18,450	78.2	20,634	87.5	113	17,928	86.9
18	22,851	18,170	79.5	19,988	87.5	113	17,508	87.6
19	23,127	18,090	78.2	20,130	87.0	111	17,530	87.1
20	22,333	17,490	78.3	19,368	86.7	111	16,934	87.4
21	21,807	17,090	78.4	18,975	87.0	111	16,666	87.8
22	21,930	17,090	77.9	18,996	86.6	111	16,599	87.4
23	20,887	16,330	78.2	17,725	84.9	109	15,460	87.2

(5) 県立高等学校生徒数 (23.5.1現在)

学科の区分	課程	全 日 制	定 時 制			専 攻 科	合 計	通 信 制
			学 年 制	单 位 制	計			
普通科	男	11,734	212	319	531		12,265	1,325
	女	12,690	190	490	680		13,370	1,307
	計	24,424	402	809	1,211		25,635	2,632
農業に 関する 学科	男	1,585					1,585	
	女	1,363					1,363	
	計	2,948					2,948	
工業に 関する 学科	男	6,026	94		94		6,120	
	女	567	16		16		583	
	計	6,593	110		110		6,703	
商業に 関する 学科	男	1,682					1,682	
	女	3,421					3,421	
	計	5,103					5,103	
家庭に 関する 学科	男	17					17	
	女	148					148	
	計	165					165	
水産に 関する 学科	男	307					347	
	女	60					64	
	計	367					411	
理数に 関する 学科	男	272					272	
	女	187					187	
	計	459					459	
文理に 関する 学科	男	445					445	
	女	645					645	
	計	1,090					1,090	
国際文化 に関する 学科	男	42					42	
	女	161					161	
	計	203					203	
国際・ス ポーツに 関する学科	男	139					139	
	女	118					118	
	計	257					257	
国際科学 に関する 学科	男	162					162	
	女	437					437	
	計	599					599	
英語に 関する 学科	男	88					88	
	女	268					268	
	計	356					356	
体育に 関する 学科	男	87					87	
	女	29					29	
	計	116					116	
美術に 関する 学科	男	10					10	
	女	108					108	
	計	118					118	
総合学科	男	1,703					1,703	
	女	2,631					2,631	
	計	4,334					4,334	
合 計	男	24,299	306	319	625		24,964	1,325
	女	22,833	206	490	696		23,533	1,307
	計	47,132	512	809	1,321		48,497	2,632

(6) 県立高等学校通信制課程入学者、卒業者の推移

年 度		12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
区 分	学 校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
入 学 者	安積第二高校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	あさか開成高校	262	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	郡山萌世高校	-	297	269	238	242	263	253	239	262	278	290	284
	計	262	297	269	238	242	263	253	239	262	278	290	284

年 度		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
区 分	学 校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
卒 業 者	安積第二高校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	あさか開成高校	165	192		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	郡山萌世高校			243	208	241	233	207	204	200	218	228	260
	計	165	192	243	208	241	233	207	204	200	218	228	260

(7) 県立高等学校教職員数の推移

区分	種別	高等 学 校																					
		課程	全 日 制・定 時 制												通 信 制								
	職種年度		14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
教員	校長	86	86	87	87	87	87	87	86	85	85												
	教諭等	4213	4095	4052	3922	3853	3790	3730	3674	3617	3523	37	37	37	37	36	37	37	37	37	37	37	
	養護教員	110	114	120	123	120	119	116	114	113	110												
	補充教員	176	125	132	151	155	161	167	155	148	148	1											
	講師																						
	寄宿舎指導員	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5												
	実習助手	395	379	370	359	353	351	346	334	330	330												
事務職員	計	4985	4804	4766	4647	4573	4513	4451	4368	4298	4201	38	37	37	37	36	37	37	37	37	37	37	
	事務職員	293	285	285	276	274	272	266	263	262	257	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
その他職員	技能員	1	1	1	1																		
	学校司書	72	68	68	66	65	65	64	61	62	58												
	用務員	69	65	59	58	57	56	56	56	54	53												
	ボランティア	18	18	19	18	18	17	16	16	14	11												
	栄養士	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4												
	調理給食員	6	5	5	5	4	4	4	4	4	5												
	計	171	162	157	153	149	147	144	141	138	131												
練習船	技能職員	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9												
	その他の職員	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13												
	計	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22												
合 計		5471	5273	5230	5098	5018	4954	4883	4794	4720	4611	44	43	43	43	42	43	43	43	43	43	43	

2 教職員人事・任用

(1) 人事異動の概要

平成23年度の高等学校教職員定数は、前年度比119人減の4,530人となった。このうち、教諭等は、前年度比94人減の3,560人である。

また、特別支援学校については、前年度比57人増の1,542人となった。このうち、教諭等は、前年度比36人増の1,304人となった。

ア 新採用について

平成23年度は96名(国語18名・地理歴史9名・公民2名・数学11名・理科12名・保健体育12名・音楽2名・美術1名・英語12名・家庭1名・農業2名・工業10名・商業3名・水産1名)の新採用教員を県立高等学校に配置した。

平成23年度に実施した平成24年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験は、東日本大震災の影響等により、4教科で採用予定者数30名程度と限定した形で実施したため、高等学校志願者は前年度比821名減の362名であった。

一次及び二次選考試験の結果、名簿登載者数は32名(前年度比69名減)となり、そのうち辞退者を除く30名(前年度比67名減)が新採用教員として配置されることになる。

イ 校長への昇任

県立学校の校長への昇任は、その職責の重要性にかんがみ、資格・人物・指導力等を十分考慮のうえ、教頭から

12名、教育庁関係から現場復帰による2名の登用をみた。これらの管理職は、できる限り自分の専門性をいかせるよう適材を適所に配置し、適正な学校管理運営をするよう努めた。

ウ 異動について

本年度も昨年度同様の方針にのっとり、本庁及び校長会との密接な連携のもとに、同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に3年以上勤務する者等を含めて541名の教諭等の異動が実現した。

経験豊かな教員の転出が促進されたこととともに、定時制・通信制・及び特別支援学校と全日制高校との交流が進んだことは、教育組織の強化充実に資するところであり、全県的に教育水準及び教育効果の向上に役立つものと期待される。

(2) 平成23年度県立学校教員異動基準

ア 一般基準

(ア) 教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡化を図り主免許教科を担当させるように努める。

(イ) 優秀な人材の定時制(夜間)・通信制・分校及びへき地校への転入を図るとともに、その者が担当年数(3年以上)勤務した場合の転出については、特に考慮する。

(ウ) 同一校には原則として、最低3年は勤務するものとする。

(エ) 2親等以内の者は、原則として、同一校勤務をさけ

る。

イ 勤続年数による基準

次に該当する者は異動の対象とする。

(ア) 採用後引き続き同一校に3年以上勤務した者

(イ) 同一校に8年以上勤務した者

ウ 地区及び学校群による基準

教職員組織の均衡化を図るため、県内を県北・県南・会津・いわき・相双の5地区に分け、各地区ごとに所在する学校を地理的特殊性を考慮して、A・B・C 3群に分類し異動を促進する。

A・B・C各群の学校は別表①のとおりとする。

(ア) 会津地区の4校(川口・田島・南会津・只見)、県南地区の4校(湖南・塙工業・修明・修明鮫川)、相双地区的3校(浪江津島・富岡川内・相農飯館)は、それぞれ1地区とみなす。

(イ) 本宮は平成16年度より県北地区とし、平成16年度以降の転入・在籍者から適用する。

(ウ) 群の取扱いの変更は、別表②の適用年度以降の人事異動該当者について適用する。

(エ) 昭和44年度以降採用者は、原則として、次の条件を満たすよう勤務させるものとする。

a 採用後15年以内に2地区以上の学校に勤務する。

b A・B 2群の学校に勤務する。ただし、A群については、採用後15年以内とする。

(オ) B・C群の学校に採用された者は、原則としてA群の学校に勤務するものとする。

(カ) 同一校群内または学校群間の異動については、次の点に留意する。

a A群については、原則として、へき地間、分校間の異動は行わない。

b B群については、原則として、同一市内間の異動は行わない。ただし、いわき市及び南相馬市は除く。

c C群については、同一市内間の異動は行わない。

(キ) 職業に関する学科の教員で、同一校勤続8年以上の者については、全県的視野から地区間で相互に異動することができるものとする。

また、異動後同一校に3年以上勤務した場合は、もとの地区内へ転出させることができる。

エ 平成21年度以降の採用者についての基準(以下「新基準」という。)

(ア) 勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

a 初任者

b 異動2校目において3年以上勤務した者(以下「若年者」という。)

c 永年者

(イ) 地域、地区及び学校群による基準

教員の適材適所への配置及び教員組織の均衡化を図るため、県内を中通り、会津、浜通りの3地域に分け、各地域に所在する学校を学校規模及び交通の利便性等を考慮して、I・II群に分類し異動を促進する。I・II群の学校は別表③のとおりとする。

a 原則として、採用後20年以内に3地域の学校に勤務するものとする。

ただし、若年者及び永年者が中通り地域の4校(湖南・塙工業・修明・修明鮫川)、会津地域の4校(川口・田島・南会津・只見)及び浜通り地域の3校(浪江津島・富岡川内・相馬農業飯館)に勤務した場合の勤務年数は、原則として3年以上5年以内とする。

b 農業、工業、商業、看護、福祉等を除く教科の教員については、II群の学校に勤務している者が同一地区内で異動するときは、原則としてI群の学校に勤務するものとする。

ただし、II群普通系からII群専門系への異動、II群専門系勤務者のうち直近の勤務がI群校の者のII群普通系への異動は可とする。

なお、相双地区においてはII群普通系内の異動も可とする。

c 農業、工業、商業、看護、福祉等の教科の教員については、全県的視野から地域間で相互に異動させるものとする。

オ 平成24年度より、採用年度にかかわらず新基準を適用する。

ただし、平成20年度以前の採用者については、平成30年度までは2(2)ウの別表①及び(ウ)の別表②も準用し、(2)ウ(エ)を満たす者は、エ(イ)aの規定を満たす者とみなす。

カ 寄宿舎指導員については、原則としてア、イ、ウに準ずるが、採用後20年以内に2地区の学校に勤務するものとする。

キ 過員解消のための異動は、全県的な立場で優先的に取り扱う。

ク 教員人事公募選考制度については、別に定める。

別表① 地区・群別学校分類表

群 地区	A	B	C	特別支援学校 (A群校扱い)
県 北	福島工業(定) 川俣 梁川 保原(定) 安達東 福島中央	福島商業 福島明成 福島北 保原 安達 二本松工業 本宮	福島 橋 福島工業 福島西 福島東 福島南	盲 聾(福島) 大笛生養護 須賀川養護(医大)
県 南	安積(御館) 長沼 石川 船引 小野 小野(平田) 郡山萌世 白河第二 湖南 壙工業 修明 修明(鮫川)	須賀川 須賀川桐陽 清陵情報 岩瀬農業 光南 白河実業 田村	安積 安積黎明 郡山東 郡山商業 郡山北工業 郡山 あさか開成 白河 白河旭	聾 郡山養護 あぶくま養護 あぶくま養護(安積) 須賀川養護 西郷養護 石川養護
会 津	猪苗代 耶麻農業 西会津 会津第二 川口 田島 南会津 只見	喜多方 喜多方東 喜多方桐桜 大沼 坂下 会津農林	会津 葵 会津学鳳 若松商業 会津工業	聾(会津) 会津養護 会津養護(竹田) 猪苗代養護
い わ き	いわき海星 磐城農業 勿来 勿来工業 遠野 いわき翠の杜	いわき総合 いわき光洋 湯本 小名浜 好間 四倉	磐城 磐城桜が丘 平工業 平商業	聾(平) 平養護 いわき養護
相 双	双葉翔陽 新地 浪江(津島) 富岡(川内) 相馬農業(飯館)	双葉 浪江 富岡 相馬農業 小高商業 小高工業	相馬 相馬東 原町	富岡養護

別表②

高 校 名	群	適用年度	高 校 名	群	適用年度	高 校 名	群	適用年度
小 野	A	52	白 河 実 業	B	61	棚 倉	A	平成9
福 島 明 成	B	56	川 俣	A	平成2	東白川農商	A	〃
福 島 北	B	〃	福 島 商 業	B	〃	あさか開成	C	平成11
いわき海星	A	〃	梁 川	A	平成8	光 南	B	〃
磐 城 農 業	A	〃	船 引	A	〃	石 川	A	〃
勿 来 工 業	A	〃	いわき光洋	C	〃	いわき光洋	B	平成16
双 葉 翔 陽	A	〃	勿 来	A	〃			
猪 苗 代	A	58	相 馬 農 業	B	〃			

別表③

群 地域・地区	I	II
中 北	福島工業 (定) 福島北 川俣 梁川 保原 保原(定) 安達 二本松工業 安達東 本宮 福島中央	普通系 福島 橋 福島西 福島東 福島南
		専門系 福島商業 福島明成 福島工業
通 り	安積(御館) 湖南 須賀川 須賀川桐陽 清陵情報 長沼 岩瀬農業 石川 田村 船引 小野 小野(平田) 郡山萌世	普通系 安積 安積黎明 郡山東 郡山 あさか開成
		専門系 郡山商業 郡山北工業
会 津	光南 壙工業 修明 修明 (鮫川) 白河二	普通系 白河 白河旭
		専門系 白河実業
浜 通 り	喜多方 喜多方東 喜多方桐桜 猪苗代 耶麻農業 西会津 大沼 川口 坂下 会津農林 田島 南会津 只見 会津二 会津学鳳中学校	普通系 会津 葵 会津学鳳
		専門系 若松商業 会津工業
い わ き 通 り	湯本 小名浜 いわき海星 磐城農業 勿来 勿来工業 好間 遠野 四倉 いわき翠の杜	普通系 磐城 磐城桜が丘 いわき光洋
		専門系 平工業 平商業 いわき総合
相 双	浪江 浪江 (津島) 富岡 富岡 (川内) 双葉翔陽 相馬農業 相馬農業 (飯館) 小高商業 小高工業 新地	普通系 双葉 相馬 原町
		専門系 相馬東

(3) 教頭複数制実施校(平成23年度実績)

福島	橋	福島西	福島北
川俣	保原	安積	安積黎明
郡山東	郡山北工	郡山	須賀川
岩瀬農業	光南	白河	白河旭

白河実業	修明	田村	葵
会津学鳳	会津工業	喜多方桐桜	磐城
磐城桜が丘	平工業	平商業	いわき総合
湯本	勿来工業	原町	郡山萌世
いわき翠の杜			
盲	聾	大笛生養護	郡山養護
あぶくま養護	須賀川養護	会津養護	平養護
いわき養護			

3 学校の設置及び統廃合

- 公立高等学校の設置・廃止等(平成24年度) -

(1) 学校の新設・廃止

なし

(2) 学級増 全日制 8校 8学級

課程	学校名	内 容
全日制	福島商業	情報処理科 1学級
	福島東	普通科 1学級
	福島南	国際文化科 1学級
	二本松工業	情報システム科 1学級
	葵	普通科 1学級
	会津工業	建築インテリア科 1学級
	平工業	電子科 1学級
	湯本	普通科 1学級

(3) 学級減 全日制 9校 1 1学級

課程	学校名	内 容
全日制	長沼	普通科 1学級
	修明	文理科 1学級
	双葉	普通科 3学級
	浪江	普通科 1学級
	富岡	国際・スポーツ科 1学級
	双葉翔陽	総合学科 1学級
	相馬	普通科 1学級
	原町	普通科 1学級
	小高工業	機械科 1学級

(4) 募集停止 なし

(5) 35人学級編制 全日制 3校 6学級

課程	学校名	内 容
全日制	川口	普通科2学級
	南会津	普通科2学級
	只見	普通科2学級

(6) 課程廃止 なし

(7) 学科転換・学科改編 なし

(8) 学科名変更 なし

(9) 校名変更 なし

(10) 連携型中高一貫教育校

課程	学校名	連携中学校
全日制	塙工業	塙
	田島	田島、檜沢、荒海
	富岡	富岡第一、富岡第二、檜葉、広野
	相馬東	玉野、中村第一、中村第二、向陽、磯部

(11) 併設型中高一貫教育校

会津学鳳高等学校(会津学鳳中学校)

(12) 定時制・通信制 変更なし

(13) 専攻科 変更なし

第2節 学校教育

1 概要

(1) 指導行政の基本方針

生徒の能力・適性、進路・関心等を十分考慮し、地域や学校の実態に応じた教育指導の充実を図りながら、人間性豊かな生徒の育成を目指して、学校教育活動が活発に展開されるよう次の重点目標を設定し、その達成に努めた。

ア 生徒の実態等を踏まえ、各学校が主体性をもって、多様な教育課程を編成し、特色ある学校づくりができるよう指導・援助する。

イ 指導内容の精選と構造化に努め、チーム・ティーチングや習熟度別学習指導などを通じて生徒一人一人の個性を生かす指導方法の工夫・改善が図られるよう指導・援助する。

ウ 生徒指導の組織・体制を点検するとともに、教職員の共通理解を基盤として、中学校や家庭との連携を深めながら、生徒理解に基づいた指導が展開されるよう、指導・援助する。

エ 生徒の学校生活への適応を促し、中途退学者の減少及び問題行動・生徒事故の未然防止が図られるよう指導・援助する。

オ 教職員の資質と指導力の向上に努める。

カ 勤労観・職業観の育成にかかる体験的な学習及び産業教育、情報教育の推進を図る。

(2) 指導組織

学習指導課長を中心に、主幹、主任指導主事及び指導主事が一体となって、それぞれの分掌に従い、企画・運営・指導助言に当たった。

なお、例年行っている学校教育指導委員の指名については、震災の影響により中止した。

(3) 学校教育指導の重点

前記の基本方針に基づき、指導の重点を次のように設定し、指導の充実を図った。

ア 教育課程の適切な運営と指導法の改善を図る。

(ア) 教育課程の適正な実施について、校長会、教頭会において周知徹底を図った。

(イ) 文部科学省指定研究校(研究開発学校)における研究実践の推進を図り、その成果の普及に努めた。

ア 教科・科目の目標を明確にとらえ、指導内容を重点化して基礎学力の充実を図ること。

ア 個性の伸長を図るために、一人一人の生徒の個性の理解に努めるとともに、指導の改善を図るなど、学習指導の個別化に努めること。

ア 学習効果を高めるための評価の方法について研究し、改善を図ること。

ア 分かりやすく、かつ質の高い授業の構築を目指して、授業の改善を図ること。

イ 学力向上を図る。

「学力向上推進支援事業」を実施し、生徒の進路希望実現を目指した各学校の学力向上やキャリア教育に関する取組を支援するとともに、特に成績上位者の学力向上を図り、国立大学等への合格者の増加を図った。

ウ 生徒指導の充実を図る。

(ア) 各種研修会、学校訪問等の指導を通して、校内における指導体制の確立を図るとともに、教職員の共通理解を図り、同一歩調による生徒指導の充実に努めた。

(イ) 生徒指導担当者研修会を開催し、生徒の多様化に即した生徒指導の在り方、開かれた生徒指導の在り方について研究協議を行った。

(ウ) 学校における教育相談体制の確立と教育相談活動の改善・充実を図った。

(エ) スクールカウンセラー活用事業として、生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有するスクールカウンセラーを配置し、いじめや不登校等生徒の問題行動の解決に当たった。

エ 進路指導の充実を図る。

各種の研修会や講座を通して、下記事項の徹底に努めた。

(ア) キャリア教育の観点より低学年からの計画的・組織的な進路指導を通じ進路意識の高揚に努めること。

(イ) ホームルーム活動における進路指導の充実に努めること。

(ウ) 面談や諸調査・諸検査を通して、生徒の能力・適性・進路の希望等を的確に把握すること。

(エ) 生徒の自己理解の促進に努めること。

(オ) 進路指導室の整備及び進路に関する情報や資料の収集に努めるとともに、その効果的な活用を図ること。

(カ) 組織的・計画的な進路相談の充実に努めること。

(キ) きめ細かな就職指導の充実・徹底に努めること。

オ 産業教育の充実を図る。

産業教育の改善・充実を図るため、施設・設備の充実及び情報教育の推進に努めた。

(ア) 体験入学の内容の質的改善・充実に努めた。

(イ) 情報教育の充実のため、教員の研修に努めた。

(ウ) 産業教育関係機関との連携により、産業教育の振興に努めた。

(4) 教職員の資質の向上と学校管理運営の充実

ア 現職教育の充実

(ア) 校内における研修体制の改善・充実を図った。

(イ) 研修会、講習会等への積極的な参加を促進し、指導力の向上を図った。

(ウ) 自己研修の充実により、教職員の能力が効果的に發揮されるように努めた。

イ 学校管理運営の適正化

(ア) 学校経営・運営ビジョンを定め、その達成度を客観的に評価し、その結果を公表するように努めた。

- (イ) 管理者が学校管理運営について積極的に指導助言を行うよう努めた。
- (ウ) 諸表簿の整理と保管、設備・備品の管理と活用については、適正に行われるよう努めた。
- (エ) 学校事務の責任分担を明確にし、正確、敏速、円滑に処理するよう努めた。
- (オ) 各種調査報告について、厳正、的確に作成し、期限の厳守に努めた。

ウ 勤務体制の確立

教職員の勤務内容を明確にし、その実績について客観的に評価できるようにした。

エ 使命感の高揚

- (ア) 教育公務員としての使命感に徹し、規律と責任ある体制を整え、教育能率の向上に努めた。
- (イ) 教育公務員としての立場を自覚するとともに、服務倫理委員会を活用して事故防止に努め、社会的信用を失墜させることのないようにした。
- (ウ) 絶えず自己研修に努め、豊かな知性を養い、指導力を高め、職責を十分果たせるようにした。

⑤ 教育環境の整備充実

ア 学習環境の整備充実

- (ア) 環境整備については、方針を確立し、年次計画による充実を図った。
- (イ) 学習環境を整備し、学習意欲の高揚を図った。
- (ウ) 施設・設備の管理と運営の適正化を図った。

イ 学校事故防止の徹底

- (ア) 安全教育の計画的実施と、事故防止を配慮した環境の整備改善に努めた。
- (イ) 学校事故、教職員事故の防止については、適切な対策を講じ、事故の絶無を期した。
- (ウ) 指導・管理の充実を図るため、関係機関、団体等との連携を密にして協力体制の確立に努めた。

⑥ 県立高等学校入学者選抜

ア 基本方針

平成24年度福島県立高等学校入学者選抜における基本方針

(ア) I 期選抜

I 期選抜は、各高等学校が自校の特色に応じてどのような受験生に志願してほしいかを選抜方法と併せて明示し、受験生は、それに応じて自分の志願したい高等学校を主体的に選択し出願できる選抜とする。選抜に当たっては、受験生の個性や学ぶ意欲を重視するとともに、自校の特色に応じた選抜となるよう選抜資料を活用し、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

- a 選抜に当たっては、志願理由書の記載内容、調査書の審査結果、面接の結果を資料とする。なお、各高等学校の判断により、学校の特色や学科の特性に応じて、小論文（又は作文）の結果、実技等の結果を選抜資料に加えることができるものとする。
- b I 期選抜においては、各高等学校が自校の教育目

標にふさわしい入学者を選抜するため、受験生を多面的・多元的に評価するための資料の一つとして面接の結果を積極的に活用するものとする。

このため、面接の内容としては、受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。

- c I 期選抜の定員枠については、県教育委員会が定める範囲の中で、各高等学校が、その特色や学科の特性に応じて設定するものとする。

(イ) II 期選抜

II 期選抜は、中学校における学習活動の成果を総合的にみる選抜とする。選抜に当たっては、学力検査の成績、調査書の審査結果を資料とし、さらに面接を実施する高等学校においては面接の結果と併せて資料とし、各学校の特色、学科の特性等に配慮しつつ、その教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

- a 学力検査を実施する教科は、全日制の課程においては、国語、社会、数学、理科、外国語（英語）の5教科とする。

定時制の課程においては、各高等学校の判断により、実施教科を減じができるものとする。

- b 学力検査の問題作成に当たっては、中学校学習指導要領に示された各教科の目標及び内容を踏まえて、基礎的・基本的な内容の確実な定着をみる出題を一層工夫するとともに、論述式の解答を求める出題や思考力・分析力を問う出題をさらに工夫するものとする。

- c 学力検査問題の配点については、各問の標準配点に留意しつつ、各高等学校の判断により配点ができるものとする。

- d 特定の教科の学力検査の配点の比重を変える傾斜配点については、各学校の特色・学科の特性を考慮し、各高等学校の判断により実施することができるものとする。

また、志願者の自己申告による傾斜配点についても、各高等学校の判断により実施できるものとする。

- e II 期選抜の合否判定に当たっては、学力検査と調査書の成績の比重を原則として同等とする。

ただし、各高等学校が自校の特色化を図るために必要と判断する場合には、学力検査と調査書の成績の比重を変えることができるものとする。

具体的には、次のようにして合否判定を行う。

(ア) 学力検査と調査書の成績の比重を同等とする場合

学力検査と調査書の成績のいずれもが定員内にある者で、調査書の記載事項及び面接を実施した場合にはその結果に特に問題のない者を合格とする。次に、その他の者については、学力検査の成績と調査書の記載事項及び面接を実施した場合にはその結果とを十分に精査して、総合的に判定する。

(イ) 学力検査と調査書の成績の比重を変える場合

学力検査と調査書の成績のいずれか一方に一定の数値を掛けて両者を加えて得られた成績と、調

査書の記載事項及び面接を実施した場合にはその結果とを十分に精査して、総合的に判定する。

ただし、学力検査と調査書の成績の比重を変える場合には、学力検査の特定の教科への傾斜配点及び自己申告による傾斜配点は実施しないものとする。

f 面接については、各高等学校の判断により実施できるものとする。

(ウ) III期選抜

III期選抜は、I期選抜、II期選抜及び連携型中高一貫教育に係る入学者選抜（以下「連携型選抜」という。）により定員（会津学鳳高等学校においては、会津学鳳中学校から会津学鳳高等学校への入学を志願する者の数を除いた数とする。）を充足しない高等学校において実施するものとし、I期選抜、II期選抜及び連携型選抜の受験の有無にかかわらず出願できる選抜とする。

選抜に当たっては、調査書の審査結果、面接の結果及び小論文（又は作文）の結果を資料として、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

なお、I期選抜、II期選抜又は連携型選抜に合格した者は出願できないものとする。

a 選抜に当たっては、調査書の成績とともに、面接の結果及び小論文（又は作文）の結果を十分に精査する。

b II期選抜における学力検査の成績は、III期選抜の資料とはしないものとする。

c III期選抜における面接は、受験生の学ぶ意欲をみる内容とともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。

(イ) 連携型選抜

連携型中高一貫教育を実施する高等学校（以下「連携型高等学校」という。）において、連携型中高一貫教育を実施する中学校（以下「連携型中学校」という。）から目的意識や意欲のある生徒の入学を促進し、6年間を通して生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を図るため連携型選抜を実施する。選抜に当たっては、受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、連携している内容に応じた選抜となるよう配慮し、各連携型高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

a 選抜に当たっては、中学校長から提出された調査書及び面接の結果を資料とする。

なお、各連携型高等学校長の判断により、学校の特色や連携している内容に応じて、課題研究レポート、適性検査等の結果を選抜資料に加えることができるものとする。

b 連携型選抜においては、各連携型高等学校が連携型中高一貫教育にふさわしい入学者を選抜するため、面接の内容としては、受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、中学校における学習活動の成果を

問う内容を含むことができるものとする。

c 募集定員枠については、別に公告する募集定員の30%を下限とし、各連携型高等学校が地域の特性に応じて設定する。

ただし、定員枠については、当該高等学校長はあらかじめ県教育委員会と協議するものとする。

また、I期選抜の募集定員枠は、これとは別に設定するものとする。

d 連携型高等学校の連携型選抜に出願することができる者は、当該高等学校と連携している中学校を卒業する見込みの者とする。

なお、連携型中学校を卒業する見込みの者は、当該中学校と連携している高等学校のI期選抜へ出願することはできない。

e 実施期日については、I期選抜と同日又はI期選抜に近接した日とする。

なお、併設型中高一貫教育校である会津学鳳中学校から会津学鳳高等学校への入学を志願する者については、各選抜に出願することはできないものとする。

イ 入学者選抜関係日程

7月14日 県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議

7月14日 県立中学校・高等学校入学者選抜方法の改善等に関する調査研究報告書提出

10月11日～10月14日

県北・県中・県南・会津・南会津・いわき
・相双の7地区で入学者選抜実施要綱説明会
実施

10月14日 平成24年度入学者募集定員決定

(ア) I期選抜関係日程

1月19日～1月24日 出願書類受付
2月2日（3日） 面接等
2月7日 合格内定通知
2月9日～2月13日 入学確認書提出
3月14日 合格者発表

(イ) II期選抜関係日程

2月14日～2月17日 出願書類受付
2月21日～2月23日 出願先変更
2月24日～2月27日 調査書提出
3月8日 学力検査
3月8日又は9日 面接等
3月14日 合格者発表

(ウ) III期選抜関係日程

3月15日～3月16日 出願書類受付
3月19日 出願先変更
3月22日 面接等
3月23日 合格者発表

(エ) 連携型選抜関係日程

1月19日～1月24日 出願書類受付
 I期選抜と同日又はI期選抜に近接した日 面接等
 2月7日 合格内定通知
 2月9日～2月13日 入学確約書提出
 3月14日 合格者発表
 (オ) 通信制の課程選抜日程
 2月14日～3月27日 出願書類受付
 4月7日 合格者発表(個人宛通知)
 ウ 志願者数・合格者数

◇ 各選抜ごとの集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、国際文化科、英語科、体育科、デザイン科学科、国際科学科、国際・スポーツ科が含まれる。
 () 内は平成23年度入試のもの。

(1) I期選抜

《全日制》

学科	入学定員	I期選抜定員	志願者数			志願倍率	合格内定者数		
			男	女	計		男	女	計
普通科等	9,450	2,366	1,449	2,289	3,738	1.58	845	1,500	2,345
農業	1,040	426	273	340	613	1.44	198	242	440
水産	160	56	76	13	89	1.59	46	11	57
工業	2,360	1,036	1,351	129	1,480	1.43	953	102	1,055
商業	1,760	676	356	854	1,210	1.79	191	523	714
家庭	40	14	0	11	11	0.79	0	10	10
総合	1,400	481	253	584	837	1.74	137	364	501
計	16,210 (16,330)	5,055 (5,041)	3,758 (4,003)	4,220 (4,438)	7,978 (8,441)	1.58 (1.67)	2,370 (2,506)	2,752 (2,848)	5,122 (5,354)

《定時制》

学科	入学定員	I期選抜定員	志願者数			志願倍率	合格内定者数		
			男	女	計		男	女	計
普通	440	138	73	96	169	1.22	46	78	124
工業	40	12	8	2	10	0.83	7	2	9
計	480 (480)	150 (150)	81 (94)	98 (109)	179 (203)	1.19 (1.35)	53 (53)	80 (86)	133 (139)

(2) 連携型選抜

学科	入学定員	連携型選抜定員	志願者数			志願倍率	合格内定者数		
			男	女	計		男	女	計
普通	200	100	50	45	95	0.95	49	45	94
工業	120	36	8	6	14	0.39	6	6	12
総合	200	60	37	59	96	1.60	21	39	60
計	520 (560)	196 (232)	95 (118)	110 (123)	205 (241)	1.05 (1.04)	76 (100)	90 (112)	166 (212)

(3) II期選抜

《全日制》

学科	入学定員	I期選抜・連携型選抜合格内定者を除いた定員	志願者数			志願倍率	合格者数		
			男	女	計		男	女	計
普通科等	9,450	7,011	3,583	3,726	7,309	1.04	2,967	3,153	6,120
農業	1,040	600	368	271	639	1.07	305	239	544
水産	160	103	74	8	82	0.80	61	7	68
工業	2,360	1,293	1,238	87	1,325	1.02	1,044	67	1,111
商業	1,760	1,046	413	691	1,104	1.06	339	564	903
家庭	40	30	4	10	14	0.47	3	8	11
総合	1,400	750	310	525	835	1.11	251	438	689
計	16,210 (16,330)	10,833 (10,675)	5,990 (6,414)	5,318 (5,463)	11,308 (11,877)	1.04 (1.11)	4,970 (4,476)	4,476 (9,750)	9,446 (9,750)

《定時制》

学科	入学定員	I期選抜・連携型選抜合格内定者を除いた定員	志願者数			志願倍率	合格者数		
			男	女	計		男	女	計
普通	440	316	141	107	248	0.78	91	83	174
工業	40	31	9	3	12	0.39	3	3	6
計	480 (480)	347 (341)	150 (149)	110 (129)	260 (278)	0.75 (0.82)	94 (0.82)	86	180

(4) 外国人生徒等に係る特別枠選抜

学校名	学科名	定員	志願者数			合格者数		
			男	女	計	男	女	計
福島北	総合	若干名	0	1	1	0	1	1
福島南	国際文化	若干名	1	0	1	1	0	1
あさか開成	国際科学	若干名	0	0	0	0	0	0
光南	総合	若干名	0	1	1	0	1	1
会津学鳳	総合	若干名	0	0	0	0	0	0
湯本	英語	若干名	0	0	0	0	0	0
相馬東	総合	若干名	0	1	1	0	1	1

(5) III期選抜

《全日制》

学科	入学定員	志願者数			合格者数		
		男	女	計	男	女	計
普通科等	891	162	83	245	118	67	185
農業	56	18	7	25	11	7	18
水産	35	13	3	16	7	3	10
工業	182	37	6	43	23	4	27
商業	143	15	8	23	15	8	23
家庭	19	2	1	3	2	1	3
総合	61	6	4	10	4	3	7
計	1,387 (674)	253 (184)	112 (84)	365 (268)	180 (128)	93 (55)	273 (183)

《定時制》

学科	入学定員	志願者数			合格者数		
		男	女	計	男	女	計
普通	142	39	18	57	26	14	40
工業	25	9	0	9	7	0	7
計	167 (92)	48 (30)	18 (12)	66 (42)	33 (23)	14 (10)	47 (33)

◇ III期選抜実施後の最終集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、国際文化科、英語科、体育科、デザイン科学科、国際科学科、国際・スポーツ科が含まれる。

() 内は平成23年度入試のもの。

《全日制》

学科	入学定員	I期選抜合格者数	連携型選抜合格者数	II期選抜合格者数	III期選抜合格者数	合格者数		
						男	女	計
普通科等	9,450	2,345	94	6,120	185	3,979	4,765	8,744
農業	1,040	440		544	18	514	488	1,002
水産	160	57		68	10	114	21	135
工業	2,360	1,055	12	1,111	27	2,026	179	2,205
商業	1,760	714		903	23	545	1,095	1,640
家庭	40	10		11	3	5	19	24
総合	1,400	501	60	689	7	413	844	1,257
計	16,210 (16,330)	5,122 (5,354)	166 (212)	9,446 (9,750)	273 (183)	7,596	7,411	15,007

《定時制》

学科	入学定員	I期選抜合格者数	連携型選抜合格者数	II期選抜合格者数	III期選抜合格者数	合格者数		
						男	女	計
普通	440	124		174	40	163	175	338
工業	40	9		6	7	17	5	22
計	480 (480)	133 (139)		180 (196)	47 (33)	180	180	360

2 現職教育

(1) 各種研修並びに講習会

名称	期日	期間	会 場	参加者
校長研修会	8.11 ～8.12	1日	各会場	新任県立学校長 14名
教頭研修会	8.16 ～8.18	1日	各会場	新任県立学校教頭30名
教職経験者研修III (中堅教員研修)	実施せず			
初任者研修 (第1次)	震災のため変則的に実施	3日	教育センター 各会場へ指導主事訪問	23年度高等学校初任者研修対象教員91名
〃 (第2次)	震災のため変則的に実施	3日	教育センター 各所属校	
〃 (教科別研修)	(1班) 9.14 ～9.15	2日	・国語 (白河旭) ・地歴・公民 (郡山) ・理科 (岩瀬農業) ・英語 (いわき総合) ・農業・水産 (修明) ・工業 (清陵情報) ・商業 (平商業)	
	(2班) 9.28 ～9.29	2日	・保健体育 (須賀川桐陽) ・音楽 (磐城) ・美術 (浪江(安達)) ・家庭 (磐城農業)	
	(3班) 10.26 ～10.27	2日	・数学 (福島西)	
〃 (基本研修)	震災のため変則的に実施	2日	教育センター 各会場へ指導主事が訪問	
〃 (地区別研修)	4月～ 12月	13日	各地区施設 学校等	
〃 (所属校における研修)	4月 ～3月	180 時間	各所属校	

名 称	期 日	期間	会 場	参 加 者
経験者研修 I	10月	3日	教育センター	県立学校教職経験5年を経過した者 60名
各所属校における研修	5月 ～12月	5日 程度	各所属校	
経験者研修 II (第1次) 共 通	震災のため変則的に実施	1日	教育センター Webによる研修	県立学校教職経験10年を経過した者 58名
教科指導 I	8.17 ～8.19	2日		
教科指導 II	2.6 ～2.9			
授業の実践 I	8月 ～12月	1日	各会場校	
各所属校における研修	4月 ～1月	15日 程度	各所属校	
社会体験研修 (4地区)	4月 ～1月	3日	各所施設等	
新任教務主任研修会	8.18 8.19 8.19 8.23	1日	福島明成高校 郡山高校 平商業高校 会津農林高校	新任教務主任のみ 27名

(2) 教員体験研修 (2か月)

派遣者及び派遣先

実施せず			

3 教育課程

(1) 高等学校教育課程説明会

平成23年度は実施せず。

(2) 福島県高等学校教育課程講習会

平成23年度は震災のため実施せず、数学、理科については、代替措置を行った。

実施対象者数 数学112名、理科90名

(3) 情報教育の充実

ア 情報教育研修

(ア) 専門研修 高等学校教育の産業教育及び教育センターの情報処理教育講座の欄参照

(イ) 一般研修 各種研修において情報処理に関する演習等を実施

イ 情報処理関係学科の設置状況

農業	生産情報	福島明成、岩瀬農業
工業	情報技術	郡山北工業、平工業、会津工業
	情報電子	清陵情報、福島工業
	情報システム	二本松工業
商業	情報処理	福島商業、郡山商業、清陵情報、小高商業
	情報会計	福島南、本宮、清陵情報
	情報ビジネス	白河実業、若松商業
	経営情報	福島商業
	オフィス情報	須賀川
	情報マネジメント	修明
	情報システム	喜多方桐桜、平商業
	水産	情報通信
いわき海星		

(4) 國際理解教育の充実

語学指導等を行う外国青年招致事業

国際化に対応できる人材の育成及び外国語教育の充実

ア 招致人数 26名

イ 配置 ○県内18の高校に各1名を配置、配置校における指導及び訪問指導
○県内7つの高校に各1名、県立中学校に1名配置、専任教師における指導

4 学力向上対策等

(1) 平成23年度文部科学省指定各種研究校

研究種別	学校名	指定年度	研究主題
	福島	19 ～ 23	大学や研究機関と連携して科学技術分野の先端的な研究にふれながら、地球的な視野で人間・社会・自然のさまざまな事象を科学的に探究しようとする態度を育成するとともに、過去の真理探究の歴史と人類全体の進歩への情熱に学んだ豊かな教養と人間性、倫理性をもった人材を育成するための研究
	会津学鳳	22 ～ 26	大学、研究機関、地元企業の協力のもとに、高度なコンピュータリテラシーをそなえ、国際化、情報化社会に夢ひらく豊かな創造性を持ち科学技術分野で活躍できる人材を、中学校・高等学校・大学の連携体制を通して育成するプログラムの研究開発
	磐城	23 ～ 27	最先端の研究機関や大学との連携を密にし、科学技術に対する興味、関心、探究心を高め、地域性を生かした研究を通して才能を伸ばし、国際化社会でも活躍できる人材を育成する理数系教育に関する研究開発

(2) 学力向上推進支援事業

ア 「確かな学力」向上のための基礎力育成プラン

高等学校において、多様な進路希望を持つ生徒が「確かな学力」だけでなく社会人としての基礎力を育成し、望ましい勤労観、職業観を育む。

(対象26校)

福島商業、福島明成、安達東、須賀川桐陽、清陵情報、長沼、光南、白河旭、塙工業、船引、小野平田、喜多方東、川口、坂下、田島、南会津、只見、いわき総合、湯本、いわき海星、勿来工業、遠野、富岡、相馬東、新地、いわき翠の杜

イ 大学進学希望実現事業

高等学校において、生徒の知的探究心の向上を図り、難関大学をはじめとした生徒が希望する大学への合格者数を増やす。

(対象校15校)

福島、橘、福島東、安積、安積黎明、郡山東、郡山、白河、会津、葵、会津学鳳、喜多方、磐城、磐城桜が丘、原町

ウ 合同学習セミナー

難関大学を目指す学力上位にある県立高等学校1、2年生を対象とし、予備校講師や県内教員によるハイレベルな講義等を行い、生徒の進路希望実現を図る。

1年生 平成24年3月20日～21日（1泊2日）

2年生 平成24年3月27日～30日（3泊4日）

1、2年生ともに国立磐梯青少年交流の家で実施した。

ウ 県知事、県議会議長、県教育長臨席校

県知事臨席校	3月1日	浪江高等学校津島校
〃	相馬農業高等学校飯館校	
県議会議長臨席校	3月1日	岩瀬農業高等学校
県議会副議長臨席校	3月1日	相馬農業高等学校
県教育長臨席校	3月1日	湖南高等学校

（2）修学旅行（県立高等学校）（）は前年度

ア 参加生徒総数 15,475人（15,807人）

イ 参 加 率 96.7%（92.0%）

ウ 行 先

行先	北海道	関東	奈良・京都	近畿・中部	中国・近畿	九州	沖縄	四国	四国・近畿	海外
校数	2 (5)	0 (1)	37 (31)	0 (0)	12 (17)	4 (4)	31 (29)	5 (0)	1 (0)	1 (6)

エ 航空機利用 66校（61校）

北海道方面 2校（5校）

大阪方面 21校（17校）

九州方面 4校（4校）

沖縄方面 31校（29校）

広島 1校（0校）

松山 6校（0校）

海外 1校（6校）

オ 泊日数

1泊2日 0校（0校）

2泊3日 3校（4校）

3泊4日 79校（76校）

4泊5日 11校（13校）

カ 必要経費

生徒一人当たりの最高額 124,914円（125,000円）

最低額 73,660円（69,294円）

平均額 93,629円（93,267円）

キ 引率責任者

校長 39校（39校）

教頭 54校（54校）

5 生徒指導・進路指導

（1）教育事務所指導主事の活動

県内7地区の教育事務所の指導主事の活動によって生徒指導の充実を図った。

主な活動は次のとおりである。

- ア 地区内の高等学校の訪問指導（計画・随時）
- イ 地区内の高等学校生活指導協議会の指導・援助
- ウ 関係諸機関、諸団体との連携
- エ 生徒指導関係の情報と資料の収集
- オ 生徒指導関係の諸研修会における指導

（2）スクールカウンセラーの配置

スクールカウンセラー配置校（47校）

福島明成、福島工業、福島北、福島東、川俣、梁川、保原、二本松工業、安達東、本宮、安積（御館校含む）、あさか開成、湖南、須賀川桐陽、清陵情報、長沼、岩瀬農業、光南、白河実業、修明（鮫川校含む）、石川、船引、小野（平田校含む）、葵、田島、喜多方東、喜多方桐桜、耶麻農業、川口、会津農林、平商業、いわき総合、小名浜、いわき海星、磐城農業、勿来、勿来工業、遠野、四倉、浪江（津島校含む）、富岡、双葉翔陽、相馬東、相馬農業（飯館校含む）、新地、郡山萌世、いわき翠の杜

6 学校行事

（1）卒業式

ア 県立高等学校卒業者数

課程	性別	男	女	計
全 日 制		7,930	7,610	15,540
定 時 制		157	167	324
通 信 制		87	136	223
計		8,174	7,913	16,087

イ 卒業式実施期日

月日	種別	全 日 制	定 時 制	通 信 制	計
3月1日		87	6	0	93
3月2日		1	1	0	2
3月4日		0	0	1	1
計		88	7	1	96

7 産業教育

(1) 県産業教育フェア

平成23年度は実施せず。

(2) 文部科学省主催の研修講座と内容

ア 平成23年度産業・情報技術等指導者養成研修

教科	氏名	職名	学校名	研修先	研修期間
震災の影響で実施せず					

イ 平成23年度学校農業・家庭クラブ連盟指導者養成講座

教科	氏名	職名	学校名	研修先	研修期間
農業	酒井登	教諭	会津農林高等学校	国立オリンピック記念青少年総合センター	8月3日～8月5日
家庭	佐賀美たか	教諭	保原高等学校	国立オリンピック記念青少年総合センター	8月4日～8月5日

ウ 平成23年度産業教育、理科教育において指導的立場にある教員の派遣研修

教科	氏名	職名	学校名	研修先	研修期間
理科	猪股一教	教諭	喜多方高等学校	福島大	7月1日～9月30日
理科	高橋信幸	教諭	浪江高等学校津島校	福島大	7月1日～9月30日

8 学校訪問

(1) 目的

指導主事等が県立学校を訪問し、関係者とともに授業研究や教科の指導に関する研究協議を行うことにより、学習指導等の充実を図る。

(2) 訪問校

経験者研修Ⅰ、又は経験者研修Ⅱの該当者の勤務する学校から数校を選定する。

(3) 訪問学校一覧

平成23年度は震災のため実施せず。

9 県立高等学校学校教育指導委員

平成23年度は震災のため任命せず。

10 教科用図書

(1) 教科書採択事務説明会

平成23年度は実施せず。

11 教育研究団体

(1) 福島県高等学校長協会

組織

平成23年度福島県高等学校長協会役員名簿

役職名	氏名
会長	杉 昭重 (黎明)
副会長	富田 昭夫 (福島)
副会長	新田 銀一 (葵)
副会長	星 浩次 (磐城)
副会長	二本松 義公 (相馬)
監査	佐藤 静子 (福西)
監査	佐藤 淳一 (福南)
事務局長	田村 秀夫 (福東)

支部

支部	支部長	副支部長
県北	富田 昭夫 (福島)	本橋 信一 (福工) 小浜宗一郎 (橘)
県南	杉 昭重 (黎明)	玉川 一郎 (郡東) 佐藤 馨 (安積)
会津	新田 銀一 (葵)	平岩 典男 (会津) 滝沢 弘明 (喜東)
いわき	星 浩次 (磐城)	吉田 政勝 (平養) 守谷 早苗 (桜が丘)
相双	二本松義公 (相馬)	山崎伊佐夫 (双葉) 八巻 義徳 (原町)

理事会

理事会	氏名	
	杉 昭重 (黎明)	小浜宗一郎 (橘)
	富田 昭夫 (福島)	菅野 貴夫 (福商)
	新田 銀一 (葵)	大竹 正志 (明成)
	星 浩次 (磐城)	本橋 信一 (福工)
	二本松義公 (相馬)	高屋 隆男 (聾)
	田村 秀夫 (福東)	

専門委員会

◎印 委員長 ○印 副委員長

専門委員会	氏名	
管理委員会	◎青山 修身 (修明)	○阿部 教夫 (い養)
運営委員会	大竹 正志 (明成)	本橋 信一 (福工)
	佐藤 馨 (安積)	菅野 誠 (安達)
	菊地惠美子 (い養)	大和田久男 (若商)
	滝沢 弘明 (喜東)	遠藤雄二郎 (坂下)
	箱崎二三彦 (光洋)	渡邊 芳広 (相農)
	新田 銀一 (葵)	

◎印 委員長 ○印 副委員長

専門委員会	氏名	
教育委員会	◎目黒 憲 (い総)	○丹藤 茂 (あ開)
課題委員会	飯野 信也 (安達東)	鈴木 英雄 (大笛)
	鈴木 浩一 (田村)	横山 道夫 (岩農)
	高屋 隆男 (聾)	五十嵐 研 (南会)
	真部 知子 (会養)	鈴木 則喜 (平工)
	大関 彰久 (富養)	本間 悅男 (相東)
生徒委員会	◎吉田会津夫 (萌世)	○荒井 一成 (猪苗代)
	若林 吉男 (福北)	湯田 恒弥 (松工)
	須田 晃雄 (長沼)	二瓶 益幸 (清陵)
	内田 貞俊 (白実)	松岡 浩三 (塙工)
	渡邊 恵一 (あぶ養)	若菜 靖彦 (猪養)
	久保田忠雄 (耶農)	根本 和次 (勿工)
	鎌倉 雅臣 (勿来)	佐藤 洋光 (新地)
	山崎 亨 (相養)	
教育委員会	◎柳沼 陽一 (光南)	○吉田啓一郎 (須桐)
課程委員会	安藤 俊 (盲)	橘 和彦 (梁川)
	高坂 均 (須養)	菅野 諭 (只見)
	山崎 浩三 (田島)	古川 清春 (遠野)
	箱崎 温夫 (海星)	高梨 洋史 (浪江)
	二本松義公 (相馬)	
高校入試委員会	◎菅田 健夫 (保原)	○坂爪 靖夫 (湖南)
	佐藤 淳一 (福南)	井戸川恵理子 (郡養)
	青田 誠 (船引)	太田 孝 (大沼)
	林 泰嗣 (西会)	鈴木久米男 (好間)
	渡部勢津子 (翠杜)	譽田 秀隆 (富岡)
	池田健一郎 (四倉)	本馬 忠幸 (川口)
	小野寺典子 (双翔)	星 浩次 (磐城)
大学入試対策委員会	◎玉川 一郎 (郡東)	○佐藤 静子 (福西)
	富田 昭夫 (福島)	田村 秀夫 (福東)
	小浜宗一郎 (橘)	鈴木 吉重 (郡山)
	湯田 嘉朗 (白旭)	新田 銀一 (葵)
	荒井 光廣 (学鳳)	三瓶 准一 (白河)
	守谷 早苗 (桜丘)	渡邊 望 (喜方)
	助川 俊一 (湯本)	山崎伊佐夫 (双葉)
	八巻 義徳 (原町)	平岩 典男 (会津)
就職指導対策委員会	◎東 陽一 (郡商)	○菅野 直芳 (会農)
	菅野 貴夫 (福商)	高城 友治 (川俣)
	水野 晴夫 (磐農)	猪狩 幸一 (須川)
	久保木勇三 (石川)	原田 宏明 (小野)
	小野 誠子 (西養)	日高 裕志 (喜桐)
	佐藤 和紀 (郡北)	橋本 清輝 (平商)
	五輪美智子 (小浜)	吉田 政勝 (平養)
	斎藤 貢一 (小商)	伊藤 裕隆 (小工)
	古川 洋子 (本宮)	羽二生幸雄 (会工)

部会長

部会	氏名
普通部会	小浜宗一郎（橘）
商業部会	菅野 貴夫（福島商業）
農業部会	大竹 正志（福島明成）
工業部会	本橋 信一（福島工業）
水産部会	箱崎 温夫（いわき海星）
家庭部会	小野寺典子（双葉翔陽）
定通部会	吉田会津夫（郡山萌世）
特別支援部会	高屋 隆男（聾）
理数部会	佐藤 静子（福島西）
英語国際部会	佐藤 淳一（福島南）
体育部会	鈴木 浩一（田村）
総合学科部会	柳沼 陽一（光南）
全国校長会	
部会	氏名
理事	杉 昭重（安積黎明）
理事	富田 昭夫（福島）
理事	星 浩次（磐城）
管理運営	青山 修身（修明）
教育課題	目黒 憲（いわき総合）
生徒指導	吉田会津夫（郡山萌世）
教育課程	柳沼 陽一（光南）
大学入試	玉川 一郎（郡山東）
就職対策	東 陽一（郡山商業）
同和教育	吉田会津夫（郡山萌世）

(2) 福島県高等学校教育研究会

ア 財政及び組織の状況

(7) 本部

平成23年度福島県高等学校教育研究会

役職名	氏名	所属校・職名
※	富田 昭夫	福島県立福島高等学校長
※	鈴木 則喜	〃 平工業高等学校長
※	湯田 嘉朗	〃 白河旭高等学校長
※	荒井 一成	〃 猪苗代高等学校長
※	大竹 正志	〃 福島明成高等学校長
※	本橋 信一	〃 福島工業高等学校長
※	菅野 貴夫	〃 福島商業高等学校長
※	渡部 勢津子	〃 いわき翠の杜高等学校長
※	小浜 宗一郎	〃 橘高等学校長
※	古川 洋子	〃 本宮高等学校長
※	原田 宏明	〃 小野高等学校長
※	佐藤 静子	〃 福島西高等学校長

役職名	氏名	所属校・職名
※	栗村 美智子	福島県立福島西高等学校教頭
※	斎藤 慶	〃 福島西高等学校教諭
※	国分 香	〃 福島西高等学校教諭

※平成23年度については、震災の影響により会議未開催のため、役員名簿の役職名は記載せず。

(i) 部会

部会名	部会長氏名	所属校・職名	会員数
養護教諭	富田 昭夫	福島高等学校長	※
保健体育	鈴木 則喜	平工業高等学校長	※
理科	湯田 嘉朗	白河旭高等学校長	※
音楽	荒井 一成	猪苗代高等学校長	※
農業	大竹 正志	福島明成高等学校長	※
工業	本橋 信一	福島工業高等学校長	431
商業	菅野 貴夫	福島商業高等学校長	※
定通	本橋 信一	福島工業高等学校長	158
英語	渡部 勢津子	いわき翠の杜高等学校長	※
数学	小浜 宗一郎	橘高等学校長	533
家庭	古川 洋子	本宮高等学校長	※
美術工芸	原田 宏明	小野高等学校長	※

○平成23年度予算 7,241,581円

※平成23年度については、震災の影響から会員数は不明。